６月定例会を振り返って

会派の意見

新こうち未来

氏原嗣志議員、川村貞夫議員、土居ひさし議員、浜口卓也議員が登壇！

氏原議員は、防災対策について市内全域に標高表示板設置の提案、高知海岸防潮堤の早期整備の要望を行った。新庁舎建設については今後の大規模事業計画を踏まえ、平成31年までの収支見通しを示すとの答弁を執行部から引き出した。**川村**議員は、仁淀川源流域の廃棄物最終処分場建設問題を取り上げ、下流域の住民の意見を聞くことや同意を得ることなど、危機感をもって質問した。この問題については全議員が共通認識を持ち、建設計画反対の決議を全会一致で採択し、愛媛県や久万高原町に意思を示した。**土居**議員は、南海地震対策に絞り質問。震災時の事業継続計画、給水計画の策定や、防災井戸設置を提案。また、燃料確保と補給体制の整備や、津波対策の盛り土造成地の提案を行った。防災井戸については、執行部から新設を検討するとの答弁があった。**浜口**議員は、「デフレ期に消費税増税をすることは、地方経済を悪化させるだけの誤った政策だ」と主張した。

新風クラブ

竹村邦夫議員が清掃業務入札方法の見直しと早期の観光アクションプラン策定を提言！

本年度の庁舎清掃業務委託契約額が、前年度比約1・6倍の合計約４０００万円と大幅に上昇した点を問題視。執行部からは適正額の確保に留意しながら、経費削減のため入札制度の見直しを検討するとの答弁を得た。

また得意分野の観光では、高知県産業振興計画と連動した本市観光アクションプランの早期策定を訴え、執行部からは年内の同プラン策定を目指すとの答弁を得た。

和田勝美議員が有害鳥獣対策の見直しを迫る！

中山間地域で鳥獣による農作物の被害が深刻な問題となっている点を指摘。次期本市鳥獣被害防止計画に、サルとシカを有害鳥獣として追加すべきではないかとただした。

執行部からは土佐山・鏡地区の区長会など、関係者からの強い要望を踏まえ、本年度改定予定の同計画の対象鳥獣について、シカは被害報告が少なく、今しばらく状況を見守りたいが、サルの追加は検討したいとの答弁があり、生産者に希望を与えた。

市民クラブ

障害者のための「基幹相談支援センター」の設置方針を示す

近藤強議員の民主党政権３年目の評価を聞く質問に対し、市長は、地域主権改革の推進や子ども手当の創設、高校授業料無償化、戸別所得保障制度などの成果を述べるとともに、三位一体改革により削減された地方交付税が相当復元されており、本市の財政再建に大きく寄与したと答弁。

また、障害者向け相談機能の強化については、身体、知的、精神の３障害に対応する「基幹相談支援センター」を設置する方針を示した。

門田権四郎議員のチャレンジ塾についての質問に対し、執行部は、同塾に通った生徒の「塾に通うことで成績が上がって自信がつき、高校に進学することができた」との声を紹介し、改めて高いニーズを感じ、可能な限り全市をカバーできるよう広げたいと答弁。

また、一斉授業を超える授業スタイル改善の必要性については、子どもの目線から授業改善を行っていくという発想の転換が求められているとの答弁があった。

日本共産党

南海地震対策は　スピード感を持って！
同和行政の異常さ浮き彫り！

防災では家具転倒防止金具の取り付けや、ブロック塀修繕助成の支援を要求。男女共同参画では女性管理職の登用拡大や防災会議への女性参画を求め、７月から複数配置をするとの答弁。同和団体へ市長以下部局長が出向き、要望や研修を受けるなどの関係を指摘、会議録は公開されることへ。給食費滞納問題では納入確約書を全ての保護者に提出させたことは不適切と指摘、就学援助制度を周知徹底するよう改善を求めた。また、生活保護バッシングが孤立死を増やすと認識をただし、入札積算方法の変更で１５００万円もの清掃委託費増を指摘、改正労務単価が反映される制度創設と公契約条例制定を求めた。行き過ぎた職員減らしの停止と消防局などの欠員解消を求め、庁舎整備や旭地区の区画整理では市民参画を尊重し、大型事業は必要以上に過大にならないよう求めた。

公明党

「公助」の要となる　インフラの整備を求める

南海トラフ巨大地震の国や県の想定に沿った早急な防災対策を要請するとともに、住民満足度の高い窓口業務を実現するための情報化政策を求めました。

山根堂宏議員は、公明党が掲げる「防災・減災ニューディール政策」の重要性を踏まえ、本市の対策として橋梁点検の推進と緊急輸送道路に架かる橋梁の整備計画の実態をただしました。

寺内憲資議員は新庁舎建設を前に、安価で無駄のない優れた情報システムの構築を強く訴え、現在の大手ベンダ丸投げ体制の改善を市長に求めました。

高橋正志議員は、新想定以後の防災行政無線の取り組みについて質問。執行部から屋外スピーカーの耐震化など、地域とのさらなる連携による再構築を目指すとの答弁を得ました。

みどりの会

近森正久議員提案の新観光資源「まちなかユーモア美術館」が始動。観光客がまち歩きするこの美術館は、ホテル・旅館を中心に路地裏や民家の壁に自然増殖を始めます。観光産業の新商人たちが誕生するまちなかユーモア美術館にご期待ください。